

二匹のねずみ

那珂市

昔、那珂郡(現在の那珂市)にある長者の家と老夫婦二人暮らしの貧しい家にそれぞれねずみが住んでいました。

二匹は毎日山の中で相撲をとっていました。長者の家のねずみはまるまると肥えているので、貧しいおじいさんの家のやせねずみは勝てたためしがありません。長者の家のねずみは、やせねずみを負かすのが楽しくて毎日毎日「相撲をとろうや」と誘います。

ある日、山へ柴刈りに行ったおじいさんは相撲をとっているねずみに気がつきました。いつ見ても自分の家のねずみが負けているので、「おめえはどうしてそんなに弱いんだ。負けてばかりいないでたまには勝つもんだ。」と言いました。すると、やせねずみは「そうは言っても、おらあろくなもの喰ってねえから腹に力が入らねえんだ」と答えると、おじいさんは「それはもつともだ。よし、今夜は正月用にとつておいたもちをついてやるう」と、大事なもち米でもちをついてくれました。



翌日のやせねずみの強いこと強いこと。長者の家のねずみはとても敵いません。強くなった理由を聞いた長者の家のねずみはおじいさんの家に行き、一緒にもちを食べました。「それじゃ毎日ここへもちを食べにこよう」と言うと、「おじいさんはもち米を全部使っちゃったから、正月が来たつてもちはもう喰えねえよ」とやせねずみはしょんぼりしています。すると、長者の家のねずみは、「もち米のあるところを、おれが知ってるから、取りに行こう」と、やせねずみを誘い長者の家の蔵の中へ入って行くと、そこにはもち米がどっさりありました。

二匹のねずみはせっせとそのもち米をおじいさんの家へ運びました。おじいさんの家には食べきれないほどのもち米が山のように積まれたということです。

やせねずみは自分の家が貧しくても分け与え、長者の家のねずみも真実を知ることので分け与える。長者の家のねずみは、もちをもらった恩とこれからの相撲の楽しみも考えたのかもしれない。より良い未来を考え、行動をしたいものです。

〈出典〉茨城の民話第一集 日向野徳久編



「運ぶ」を支え、環境と未来をひらく

ISUZU 茨城いすゞ自動車株式会社

本社 / 〒310-0063 水戸市五軒町1-2-5 ☎029-225-1215(大代) <http://www.ibaraki-isuzu.co.jp>

いきいき茨城ゆめ国体2019  を応援しております。